

垂れ枝の中玉ミカンづくり 下

長崎県時津町・吉川正則さん

垂れ枝を毎年出させる3つの管理

1月号で紹介した「吉川式せん定」は、樹勢の暴れやすい高糖系ミカンから中玉の果実を毎年とるための技術だ。チェンソーで垂主枝上の立ち枝や邪魔な横枝をばっさり切ると、樹の内側まで光が入り、大玉が成るような強くて太い芽ではなく、実が成ると垂れるような軟らかい芽が出る。垂れた枝には大玉ではなく、市場に求められるM/Lサイズのミカンが成るのだ。

この軟らかい芽をたくさん出させて隔年結果をさせないためには、せん定に加えて欠かすことができない作業がある

9月 大玉摘果

大玉が多くて隔年結果

大玉摘果は吉川さんが10年前に思いついた方法だ。それまでは農協の指導どおりに小玉やキズ果を摘果し、着果負担をかけて糖度を上げるために3〜4L果を収穫直前まで成らせて樹上選



5月上旬の有葉花

図1 大玉摘果のやり方

①先端から基部へ手を滑らせて摘果

果径5cm以上のミカン



②果実をもうで摘果

* 5月の摘蕾後に出てきてしまった有葉果であることが多い

「大玉の果実は養分の消費が多く、樹に負担がかかりすぎて隔年結果の原因になるうえ、金にならない。このやり方ではM/Lをつくるのはムリたい」

5cm以上の果実を摘果

収穫期に3L以上になるミカンは、9月下旬の果径が5cm以上。そういう果実があつたら、まずその結果枝の葉をすべて摘葉してから実を摘果する。こうすれば、葉の元や大玉を摘果したところから、翌年の春に軟らかい春芽が出てくる。最近は温暖化で秋にも芽が出てしまう可能性が高いので、9月下旬まで待つてから作業するのがいい。大玉摘果をするときは、樹の外側だけに目が行きがちだが、大事なのは懐

5月 有葉花摘蕾

有葉花は大玉になりやすい

今年出た新梢の先端に、葉と一緒に多くの有葉花だ。葉が多く養分を送るので、直花よりも大きくなりやすい。有葉花は枝の勢いが強いところにしやすいので、そのまま成らせたら3〜4Lになってしまう。そこで、蕾がつかぬうちに摘蕾する

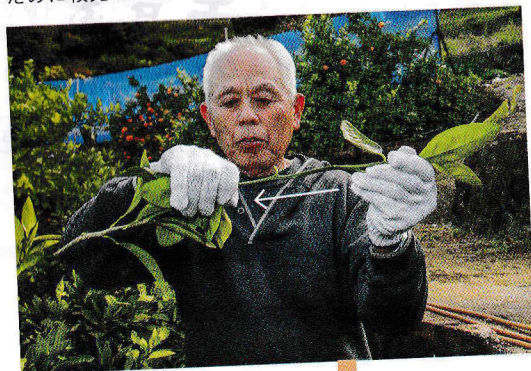
三つある。有葉花摘蕾と、大玉摘果、そして夏秋梢整理だ。



吉川正則さん(74歳)。早生ミカン25a、高糖系の「青島」を現在は自家用程度栽培(とくに断りがない限り赤松富仁撮影)

夏秋梢と春芽の整理

(写真は夏秋梢だが、30cm以上の春芽も同じ。実演のために枝元から切った)



先端から手を滑らせて摘葉



折り曲がったところが養分の切れ目なので、そこで切る

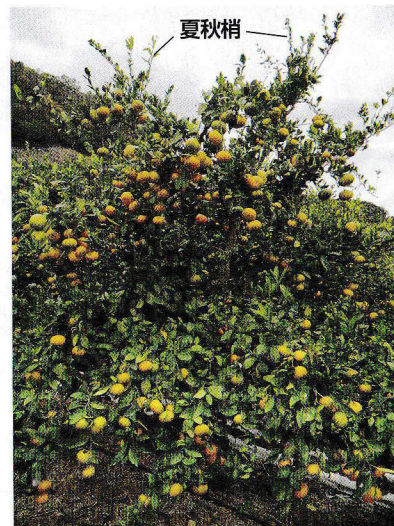
が減っていく。先端付近で折り曲がる
ところは、養分が少ない弱い部分なの
で「養分の切れ目」。ここで切れば先
端が伸び返すことはまずない。春芽と
夏芽の境目などの枝元近くで切ってし
まうと、そこには養分がたっぷりある
ので、また強い芽が出てしまうのだ。
夏秋梢整理は以前から農協に指導さ

れていたことで、吉川さんはその効果
を感じていた。そこで30cm以上伸びた
強すぎる春芽にもこれを応用しようと
考えたのだ。強すぎる春芽を残してお
くと、翌年大玉のミカンが成ってしま
う。だから、夏秋梢と同様に摘葉して
折り曲げ、切り返している。
すべての夏秋梢や強すぎる春芽を整

につく大玉もしっかり摘果すること。
また、小玉とキズ果は摘果しないのも
ポイントだ。あえて残すことでちょ
どいい着果負担になり、ミカンの糖度
が上がってくる。
吉川さんの摘果はこの大玉摘果と最
後の樹上選果の2回だけ。樹上選果の
ときには、加工原料にまわすような小
玉果もできるだけきちんと落とすよう
にしている。家まで運んで選果して、
また農協に運んで移し替えるなんて作

11月 夏秋梢と春芽の整理 養分の切れ目で切る

収穫前に行なうのが、夏秋梢整理と
強い春芽の整理。夏秋梢は春芽から夏
芽や秋芽が伸びた枝なので、栄養生長

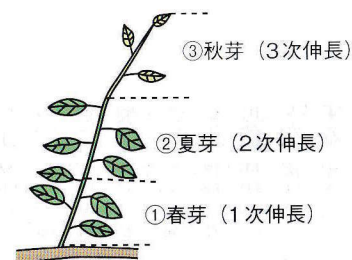


11月の収穫前の樹姿。吉川さんの樹ではないが、夏秋梢が勢いよく出ている(編)



11月の枝の様子

図2 ミカンの枝の伸び方



②以上の芽が伸びた場合、夏秋梢と呼ばれる。樹勢が強い樹ほど夏秋梢が発生し隔年結果につながり、大玉もできやすい

効くリン酸のミズホです

Mリンカリ
+ 米ヌカ
+ 過リン酸石灰
+ 塩化加里

上記の材料と混合し
発酵リン酸肥料を作る
酵素微生物資材です!!

着果・結実促進
着色・糖度向上
秀品率向上 など多数

作り方動画
QRコード

株式会社 ミズホ
名古屋市中区山花町64-1
TEL: 052(763)4171
http://www.mizuho.to

吉川さんは高糖系だけでなく早生ミ
カンにも吉川式せん定を応用してい
る。まだまだ進化は続きそう。

理するのは大変そうだが、吉川さんの
樹の夏秋梢はかなり少ないという。吉
川式せん定と三つの作業を続けると、
樹勢がだんだん落ちていく。だから
、栄養生長に傾いた夏秋梢が減って
いくのだ。

が強い枝なのだ。夏秋梢や強い春芽を
そのままにすると、翌年に花がつき
過ぎて隔年結果を引き起こし、樹勢の強
い枝には大玉がつく。だから先端から
基部まで手を滑らせて摘葉し、先端か
ら枝を折り曲げて切り返す。こうすれ
ば、葉の元から翌年ちょうどいい強さ
の春芽が出る。つまり、翌年のちょ
うどいい結果母枝を確保でき、樹形を
広げてしまう先端の処理もできる。
枝は元から先端にいくにつれ、養分